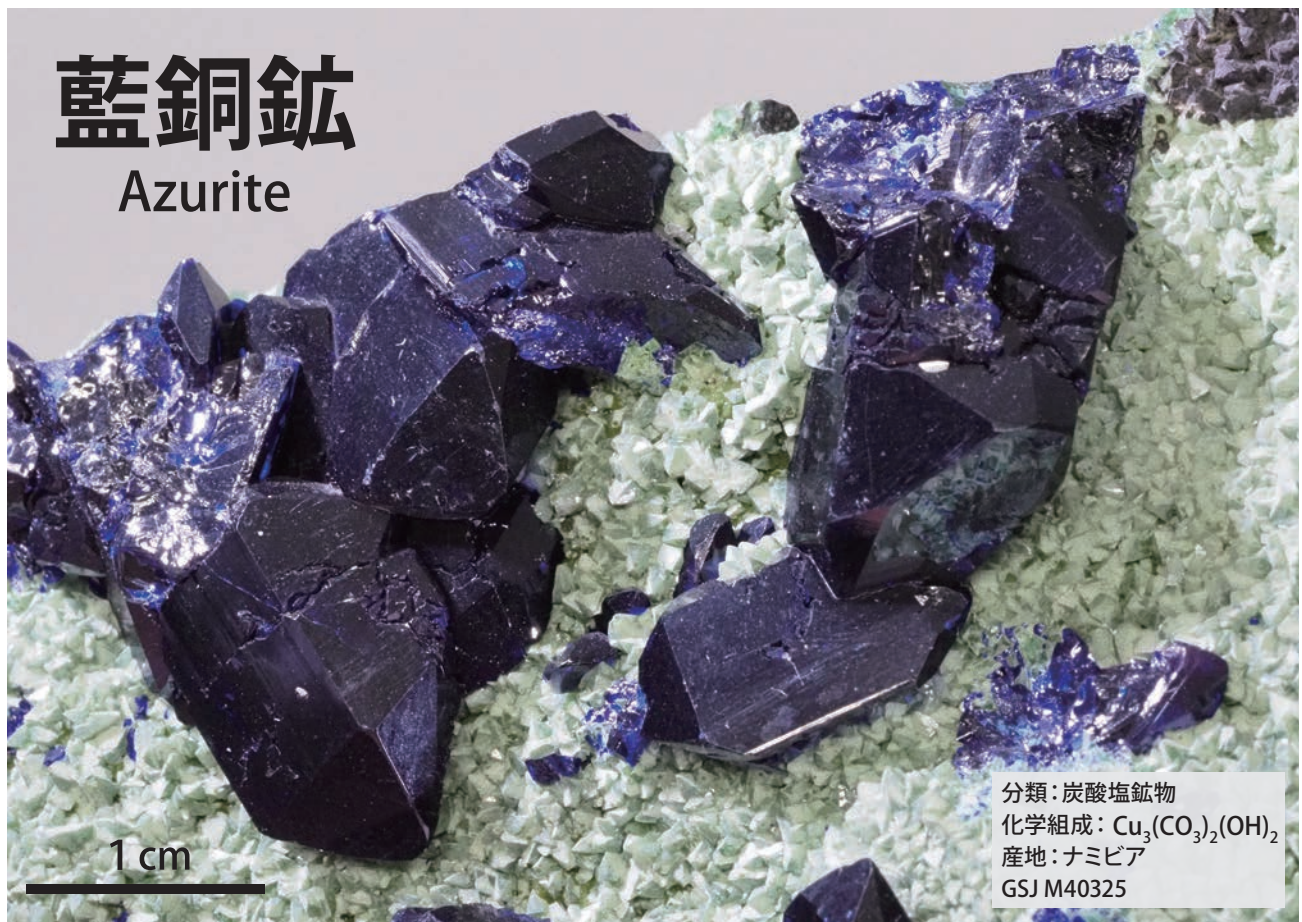




藍銅鉱

Azurite

分類: 炭酸塩鉱物
化学組成: $\text{Cu}_3(\text{CO}_3)_2(\text{OH})_2$
産地: ナミビア
GSJ M40325

藍銅鉱は鮮やかな濃い青色が特徴です。それは岩群青と呼ばれる顔料になります。藍銅鉱は孔雀石などの銅鉱石とともに産出しますが、緑色の孔雀石に変化しやすく存在しにくい大変貴重な鉱物です。湿度の高い環境に長く置くと孔雀石に変化して緑色に変化します。そのため、藍銅鉱の自形結晶は板状や柱状などの形態を示しますが、その形のまま孔雀石に交代した結晶(仮像)をつくることがあります。柱状の孔雀石があった場合は、元の姿は藍銅鉱だったのかもしれませんが。

藍銅鉱は日本画でも貴重で高価な「群青色」として使用されていました。代表的な「燕子花図屏風」※2では、今でも鮮やかで深みのある群青色を見ることが出来ます。また、ヨーロッパの絵画でも、青金石の青色と共に、藍銅鉱の群青色が使用されていました。

2階の青柳鉱物標本に展示されている藍銅鉱 (GSJ M40325: 細粒の淡緑色の結晶は菱亜鉛鉱) は特に大きな結晶で構成され、鮮やかな群青色が特徴です。館内では、他の藍銅鉱とも結晶の色や形の違いを比べてみる事ができます。

※1「くじゃくいし」ともいう

※2 尾形光琳(江戸時代、18世紀) 根津美術館蔵

(地質標本館室 武井勇二郎)